

番号	7	平成28年度公共事業再評価調書				担当課名	道路整備課
事業名	道路改築事業				事業主体	静岡県	
箇所名	一般国道414号 ^{すはら} 須原拡幅				関係市町村	下田市・河津町	
事業採択年度	平成 18 年度			計画期間	平成18年度 ~ 平成29年度		
用地着手年度	平成 18 年度			工事着手年度	平成 21 年度		
再評価理由※	再評価実施(H23)後5年間が経過した時点で継続中						
全体事業費	百万円 1,570	投資状況 (百万円)	~H26年度 1,107	H27年度 6	H28年度見込 20	計 1,133	
事業概要	<p>(1) 事業目的 本路線は、国道135号と国道136号とともに、伊豆半島の道路網の骨格を形成する重要な路線であり、すれ違い困難な幅員狭小箇所を解消するとともに、夏期の大型車通行規制区間(河津町梨本^{なしもと}~下田市箕作^{みつくり} 約20km)を縮小し、安全で円滑な交通の確保を目的とする。</p> <p>(2) 事業内容 計画概要：延長4,200m 車線幅6.0m(全幅7.5m) 2車線バイパス(現道拡幅)</p>						
【視点1】	<p>(1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化 当該区間の交通量は、事業着手前の3,009台/12h(H17センサ)から3,605台/12h(H22センサ)と増加しており、伊豆縦貫自動車道(河津下田道路Ⅱ期)のアクセス道路となることから、今後も交通量の増加が見込まれる。</p> <p>(2) 事業の投資効果 現時点(H28)の分析結果：B/C=1.35 ・総便益(B) 25.50億円 走行時間短縮便益24.23億円、走行経費減少便益1.27億円、交通事故減少便益0.00億円 ・総費用(C) 18.83億円 建設投資額 17.15億円、維持管理費 1.90億円、用地残存価値 -0.22億円 狭隘かつ線形不良区間の解消により、安全で円滑な交通が確保される。 観光交通の利便性向上による地域活性化にも寄与する。</p> <p>(3) 事業の進捗状況 【事業費】進捗率72.2% (平成28年度末見込み：1,133百万円/1,570百万円) 【事業量】86.2% 3,620m/4,200m 【用地面積】83.5% 5,226m²/6,260m² 【工事費】進捗率68.3% (平成28年度末見込み：883百万円/1,293百万円)</p>						
事業の必要性	<p>評価 <u>継続が妥当</u> ・ 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない</p>						
【視点2】	<p>平成29年度完成に向けて、今年度は残る地権者について交渉を継続し、早期買収に努め、用地取得率100%を目指す。</p>						
今後の事業の進捗の見込み	<p>評価 <u>継続が妥当</u> ・ 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない</p>						
【視点3】	<p>これまで軽量盛土工を採用するなど、コスト縮減を図った。 今後も新技術・新工法の活用、構造物のプレキャスト化による省力化などによりコスト縮減を図っていく。</p>						
新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性							
対応方針(案)	<p>(1) 対応方針(案) 本事業を(<u>継続</u> ・ 見直し後継続 ・ 中止)する。</p> <p>(2) 理由 本事業は、伊豆半島の主要幹線である国道414号のすれ違い困難な狭隘区間の解消を図るとともに、伊豆縦貫自動車道のアクセス道路となる路線であることから、整備の事業効果は高い。事業も順調に進捗していることから、事業を継続し早期完成を図る。</p>						

一般国道 414 号 須原拡幅

(「費用便益分析マニュアル」国土交通省道路局 都市・地域整備局 平成 20 年 11 月)

総括表

I) 総便益 B	25.51 億円
便益=[評価期間内に当該路線を整備しなかった場合に発生する経費] - [評価期間内に当該路線を整備した場合に発生する経費]	
II) 総費用 C	18.83 億円
総費用=[当該計画道路の建設投資額]+[当該計画道路の検討期間内に必要となる維持管理費]	
III) 費用便益比 B/C	1.35

I) 総便益の算出

①各種費用の H42^{※1}の便益

	走行時間費用 (億円/年)	走行費用 (億円/年)	交通事故損失額 (億円/年)	合計 (億円/年)
整備しなかった場合 A	3.51	0.60	0.14	4.25
整備した場合 B	2.66	0.56	0.14	3.36

便益 A-B	0.85 時間短縮便益	0.05 経費減少便益	0.00 ^{※2} 事故減少便益	0.90
-----------	----------------	----------------	------------------------------	------

- ・「時間便益」：道路整備による走行時間短縮を賃金率等で金銭評価
- ・「走行便益」：走行円滑化による燃費向上等に伴う走行経費節約を金銭評価
- ・「事故減少便益」：道路整備により交通事故件数が減少し事故の社会費用が減少する評価
- ・表示桁数の関係で、計算値と一致しないことがある。

※1 交通需要推計の適用年次

※2 事故減少便益は「費用便益分析マニュアル(国土交通省)」の算定式により算出しており、条件によってはマイナス値になることもあるが、交通事故増加に繋がるものではない。

②総便益の算出

供用後 50 年間を評価期間としているため基準年の年間経費に各年の割引率をかけ、便益を算出し、当該道路を整備しなかった場合とした場合の差を求め、総便益とする。

	将来の便益 H30~H79	
総便益	25.51	…B

II) 総費用の算出

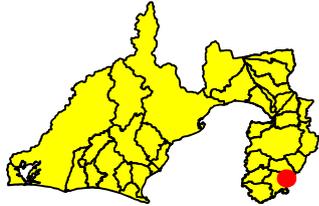
[総費用]=[建設投資額]+[維持管理費]-[用地費の残存価値]

事業費 (億円)	建設投資額 (億円)	年間維持管理費 用(万円/年)	維持管理費 (億円)	用地残存価値 (億円)	総費用 (億円)
15.70	17.15	92.0	1.90	0.22	18.83

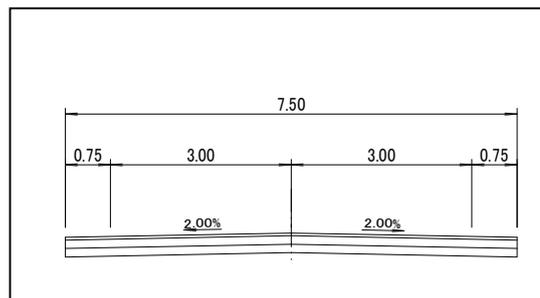
…C

- ・「建設投資額」：建設費用を算出基準年次の価値で評価するために各年次ごとに割引率をかけ、合計したもの。
- ・「維持管理費」：整備延長に対する年間維持管理費用に割引率をかけ、供用後 50 年間を合計したもの。
- ・「用地費の残存価値」：検討期間後の残存価値を現在価値化したもの。
- ・表示桁数の関係で、計算値と一致しないことがある。

位置図



標準横断面図



交通の円滑化



「地理院地図」(電子国土web)をもとに編集・加工作成

観光活性化への寄与



観光イベント等		入込客数
下田市	太鼓まつり	150千人
	海水浴	620千人
河津町	河津桜まつり	801千人



「地理院地図」(電子国土web)をもとに編集・加工作成

「平成26年度静岡県観光交流の動向(静岡県文化・観光部観光交流局)より」